

## 地球圏科学専攻

### 人材養成および教育研究上の目的

---

地球圏科学専攻においては、理学研究科の理念のもとに、地球圏の自然科学的な諸問題について、物理学、化学、地球科学、生物学の各領域にわたる教育と研究を行い、博士課程前期では、総合的・歴史的な視野を持つ専門職業人、博士課程後期では、総合的・歴史的な視野を持つ自立した研究者を養成する。

### 三つのポリシー

---

#### ❖ アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

地球圏科学専攻では、生物を含む地球圏で起こる諸現象に関する深い学識を持ち、自立して研究活動を行い得る能力を持つ人材、及びその学術的素養を活かして社会で活躍できる専門的職業人を育成することを目的としている。

博士課程前期では、一定水準以上の学力があつて、かつ地球圏における諸現象に興味があり、その仕組みの理解に向けて積極的に取り組む人材を受け入れる。特に成績優秀な学部学生には3年次で飛び級制度、4年次では推薦入学制度を設けている。自然科学全般に関する広い見識の重要性から、他大学・他学部の学生や社会人・外国人留学生も積極的に受け入れる。

博士課程後期では、修士論文の内容の精査と面接審査等によって、探求心と研究を遂行するための能力の有無を見極め、かつその仕組みの理解に向けて意欲的に取り組む姿勢を審査する。また地球圏における諸現象の解明に興味を持ち、新しい考え方で研究を遂行する意欲のある社会人・外国人留学生も受け入れる。

#### ❖ カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

博士課程前期では、実験・野外活動・データ解析等による地球圏科学の研究手法の修得、講義による基礎的及び最先端の知識・考え方の修得、輪読・論文抄読等の少人数教育による研究能力や自己表現力の涵養を有機的に行えるようカリキュラムを構成している。さらに他専攻の科目の受講も可能としており、専門にこだわらない多面的かつ先端的な知識を修得できるようにしている。

博士課程後期では、前期課程の教育研究をさらに深化・発展させ、自立して研究活動を遂行し得る高度な能力を備えた人材の育成を図る。このため、学生の学位取得に向けた実験・野外活動・データ解析等を中心とした自主的な研究推進と指導教員のもとのゼミナールを重視し、加えて自然科学に関する深い学識を身につけることができるよう、





専門的な特修科目を設置している。

#### ❖ ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

博士課程前期では、広い視野に立って深い学識を修め、地球圏科学についての研究能力又は地球圏科学に関わる職業に従事するために必要な能力を有することを学位授与の判断基準とする。修了に必要な授業科目の単位の取得に加えて、修士論文を提出させ、審査を行う。

博士課程後期では、研究成果が新たな知見を含み、研究者として自立して研究活動を行い得る能力又は地球圏科学に関わる専門的な職業に従事するために必要な高度な能力を有することを学位授与の判断基準とする。博士（理学）の学位授与には審査付き学術誌に一定基準数以上の論文が掲載されていることを基本要件としている。修了に必要な授業科目の単位の取得に加えて、博士論文を提出させ、審査を行う。

